

Little eArth Corporation

株式会社ラック

第16期 報告書 2022.4.1~2023.3.31

証券コード：3857

—ネットワーク社会の進展により、
時間的にも空間的にも地球は小さくなっていく—

大手企業を中心とした 確固たる顧客基盤

当社は、他社に先駆けて始めたサイバーセキュリティ対策サービスと、独立系のITベンダーとして幅広い領域のSIサービスを提供しており、大手企業を中心とした確固たる顧客基盤を有しています。

サイバーセキュリティ 対策サービスに強み

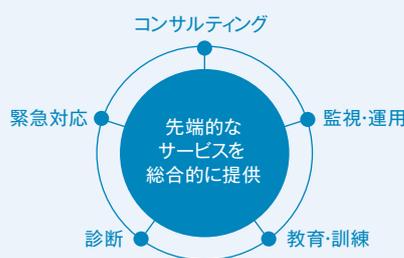
国内最高水準の知見を持つセキュリティエンジニア陣を擁し、悪質かつ巧妙化するサイバー攻撃の脅威からお客様をお守りしています。安定した収益基盤を持つSI事業を支えに、市場での優位性が高いセキュリティ事業を軸にした企業成長を目指しています。

安心・安全なサイバー空間への貢献

SSS

セキュリティソリューションサービス

24時間365日、リアルタイムで監視する国内最大級のセキュリティ監視センターを軸に、大手企業や官公庁向けに総合的なセキュリティ対策サービスを提供しています。

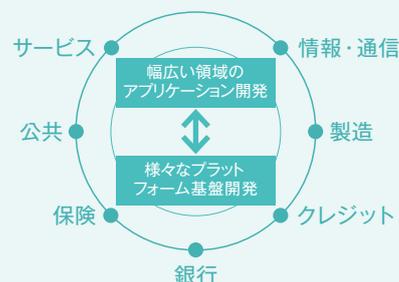


ITによる豊かな社会への貢献

SIS

システムインテグレーションサービス

大手金融機関向け基盤システム開発のノウハウを強みに、幅広い業種のお客様へアプリケーションから基盤まで一貫したSIサービスを提供しています。



持続的な収益拡大に向けた セキュリティ事業、SI事業の 成長戦略を推進します



期初に掲げた取り組みを着実に推進

新型コロナウイルス感染症の再拡大や円安の進行、ロシア・ウクライナ問題の長期化など、社会・経済情勢は不透明な状態で推移しました。

このようななかでも、当社は期初に掲げた「クラウド」「内部不正」「ランサム」の領域への取り組みを着実に進めました。クラウドへの対応としては、株式会社野村総合研究所との合併会社ニューリジェンセキュリティ株式会社による新たなサービスの提供を開始しました。内部不正対策においては、株式会社エルテスとの資本業務提携を通じて、大手企業向けに内部不正監視サービスが拡大しました。また、ランサム攻撃に対しては、緊急対応サービスをはじめとして、診断サービスのラインアップを拡充するなど取り組みを強化しました。

これらを踏まえ、セキュリティ事業、SI事業ともに拡大したことで、売上高、営業利益は増収増益となりました。一方で、社内基幹システム開発の中止に伴う特別損失を計上したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は、大幅な減益となりました。大きな特別損失を計上したことに関し、株主の皆様にはご心配をおかけし誠に申し訳ございません。経営者としての責任を果たすべく、実施したプロジェクト総括と策定した再発防止策をもとに、社内基幹システムの再構築に取り組んでまいります。なお、年間配当は予定通り1株当たり26円とさせていただきます。

セキュリティ事業の成長戦略と SI事業の収益改善に取り組む

あらゆる事業や業務でクラウドの活用が推進されるなか、革命的なテクノロジーである生成AIの登場により、働き方やサービスの提供方法も大きな変革が求められるようになっていきます。サイバーセキュリティの分野では、テクノロジーをいち早く取り入れる攻撃者への対抗は必須であり、これまで以上に高度で迅速な対

応が求められます。

このような背景のもと、セキュリティ事業においては、競争力の向上を目指した成長戦略を更に推し進めます。特定顧客向けに高度な対策を行う個別監視を軸とした運用監視サービスの拡大とともに、当社の診断ノウハウとAIによる自動診断を組み合わせた診断サービスの拡大に取り組みます。更に、大規模化、複雑化する緊急対応案件に対して迅速な対応が図れるよう、協業による緊急対応サービスの体制を強化していきます。

SI事業においては、前期からクラウド型サービスの導入支援に関わるシステム開発の提供を進めており、このような付加価値の高いシステム開発案件の拡大に取り組みます。また、エンジニアのリスキリングも推進することで、今後の収益改善に取り組みます。

加えて、両事業および全社的な取り組みとして、生成AIを活用した社内全般の業務効率化、セキュリティを軸としたサービス開発への検証にも着手します。

「信じられる社会」の実現に向けて 成長戦略を推進

急速に深化・進展するデジタル社会という当社にとっての追い風のもとに、セキュリティとSIの両事業において時代に即した収益改善策に取り組むことで、2024年3月期の連結業績は増収増益を予想しています。

今後とも当社は、「たしかなテクノロジーで『信じられる社会』を築く。」というパーパス（存在意義）のもと、成長に向けて歩み続けていきます。株主の皆様におかれましては、引き続き中長期的な視点でご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

西本逸郎

業績ハイライト

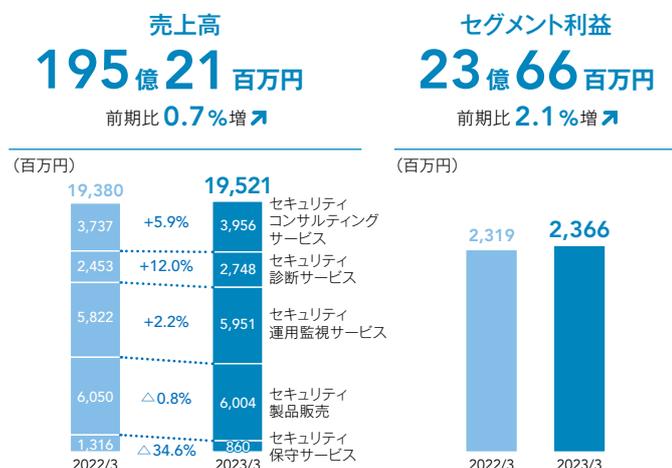
セキュリティ事業においてコンサルティングサービスや診断サービスが拡大するとともに、SI事業では開発サービスやソリューションサービスが伸長し、増収増益となりました。一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、社内基幹システム開発の中止に伴う特別損失の計上などにより、大幅な減益となりました。



事業別概況

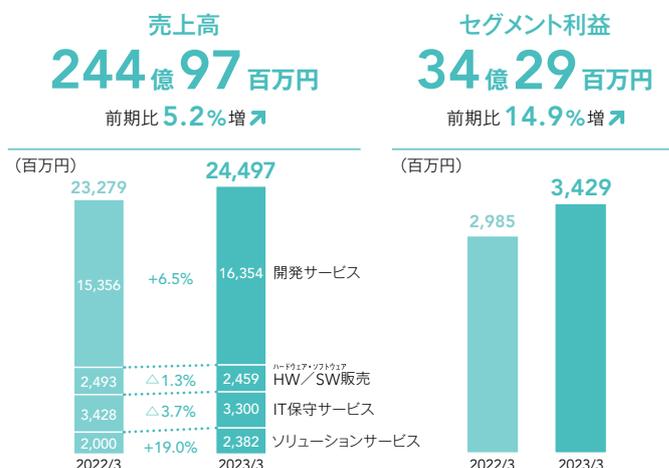
SSS 事業

企業へのサイバー脅威が衰えを見せることなく猛威を振るうなか、コンサルティングサービスや診断サービスなどが拡大したほか、特定企業向けに高度な対策を行う個別監視サービスなどが伸長したことにより、増収増益となりました。



SIS 事業

開発サービスでは大手銀行やクレジットカードなど金融業向け案件に加え、サービス業向けなどの案件が大幅に伸長したほか、サイバーセキュリティ対策にも寄与するソリューション製品関連の販売が拡大したことにより、増収増益となりました。



2024年3月期 業績予想

あらゆる事業・業務領域でクラウドがIT基盤として活用されるなか、高度化されたサイバーセキュリティ対策への需要拡大を背景に、増収増益の予想としています。また、年間配当金は1株当たり26円の予想としています。

	2023/3実績	2024/3予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	44,018	46,500	+2,481	+5.6
営業利益	1,775	1,900	+124	+7.0
親会社株主に帰属する当期純利益	△147	1,250	+1,397	—
1株当たり年間配当金(円)	26	26	±0	—

個別監視サービスの導入・受注案件が拡大



サイバー脅威がより悪質化、巧妙化するなか、運用監視サービスでは個別顧客向けにカスタマイズされた高度な対策を行う「個別監視」のニーズが拡大しています。

このような背景のもと、大手製造業向けの導入とともに、デジタル庁などの公共関連や大手小売業向けなどで個別監視サービス案件の受注を獲得しました。

運用監視サービスは24時間365日、お客様のネットワークを常時監視するサービスであり、高度な対策を実現する「個別監視」とあわせて、今後とも安心・安全に事業を継続できるようお客様を支援していきます。

運用監視サービス | <https://www.lac.co.jp/operation/mss.html>

クラウド領域でのセキュリティ対策の取り組みを拡大

ラックは、テレワークの常態化やクラウド移行などによるサイバー攻撃に対応するため、日本マイクロソフト株式会社と協力し、セキュリティガイドラインの策定などに取り組んできました。

今回、新たな取り組みとして、Microsoft製品を中心にクラウドサービスからの情報漏洩や不正アクセスがないかを把握できる「Microsoft Sentinel」に対し、セキュリティ専門家としての知見を活かして活用を支援する「Microsoft Sentinel活用支援サービス」の提供を開始しました。

本サービスでは、データ分析を容易にするラック独自の管理画面の提供とともに、経験豊富なラックのエンジニアが動作状況を確認し、現状把握やトレンド分析、運用改善のための運用レポートを提供するなど、お客様の課題にあった活用を支援します。

クラウドサービス

Microsoft Sentinel 活用支援サービス

- ラック独自のノウハウで構築された管理画面の提供
- 現状把握やトレンド分析、運用改善のための運用レポートを提供

ニュース
リリース記事

https://www.lac.co.jp/news/2023/03/30_press_01.html

➔

緊急対応サービスの事業体制強化を推進

サイバー攻撃の被害は大規模化、複雑化しており、事故対応において原因究明をいかに迅速に行えるかが課題となっています。

これを受け、ラックは緊急対応サービスの事業体制強化に向けてイスラエルのSygnia社と業務提携を行いました。今後、Sygnia社が独自開発したクラウドを含む多様なIT環境に対応できるインシデント対応支援ツールを活用するなど協業を進めることで、緊急対応サービスの対応力強化と迅速化を図ります。

ニュースリリース記事

https://www.lac.co.jp/news/2023/02/06_press_01.html



金融犯罪に関連する様々な独自調査を実施

ラックは、ATMやインターネットバンキングでの不正送金を防ぐことを目的に「金融犯罪対策センター」を2021年に設立しています。その取り組みの一環として、金融機関が金融犯罪に関しどのような対策を取っているか、またそれが有効かどうか独自の調査を実施しました。

その結果、一定の対策が取られているものの、金融犯罪のリスクが存在していることが判明し、調査内容と結果を当社Webサイトで公表しました。日々、巧妙化する金融犯罪に対し、業界全体として対策が必要であり、当センターではその実態を把握するとともに、金融犯罪「ゼロ」に向けて、今後とも金融機関や関連事業者を支援できるよう取り組みます。

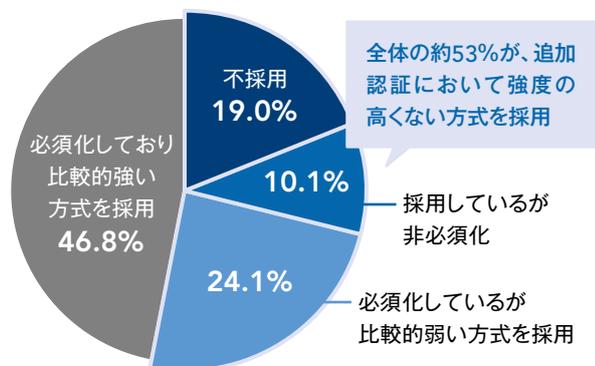
金融犯罪対策センター

<https://www.lac.co.jp/corporate/unit/fc3.html>



調査 1 インターネットバンキングサービスにおけるサイバー金融犯罪対策

送金・振込など決算時のワンタイムパスワード追加認証の状況



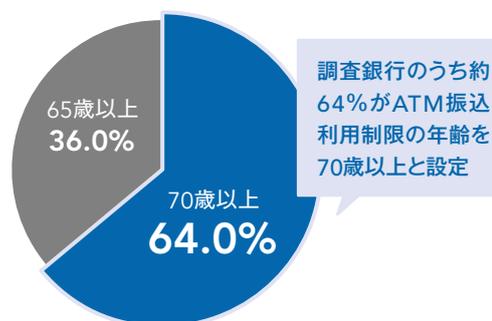
調査対象 79の金融機関(都市銀行、地方銀行、ネット銀行など)

調査期間 2022年5月～2022年7月

セキュリティ強度の低い認証方式を採用しているケースが数多く確認され、犯罪者の「なりすまし」によって不正利用されやすいリスクが多数残存していることを確認しました。

調査 2 還付金詐欺における金融機関の対策

ATM振込利用制限の対象となる年齢状況



調査対象 44の金融機関(各都道府県において主要銀行と推測される都市・地方銀行)

調査期間 2022年12月9日～2023年1月20日

還付金詐欺は2022年に4,679件(警察庁調査)と過去最高を記録しています。金融機関ではATMの振込利用制限の年齢を設けていますが、標的年齢の引き下げやインターネットバンキングと組み合わせた犯罪リスクがあることを確認しました。

「健康経営優良法人2023」の認定を取得



健康経営優良法人認定制度

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/kenkoukeiei_yuryouhouzin.html



ラックは、従業員の健康保持増進を目的として、2022年4月に「健康企業宣言」を発信しており、専門組織である健康管理室のもと健康診断の実施を徹底するなど戦略的に健康経営を進めています。

従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する健康経営の取り組みが優良であると評価されたことから、経済産業省による「健康経営優良法人2023(大規模法人部門)」に認定されました。

今後も、従業員一人ひとりの心身の健康維持と更なる健康増進に努め、その成果として業績の向上や社会への貢献を目指します。

業績

会社概要 (2023年3月31日現在)

商号 株式会社ラック

所在地 〒102-0093
東京都千代田区平河町2丁目16番1号
平河町森タワー

設立 2007年10月1日

資本金 26億4,807万5,000円

従業員数 連結：2,129名
個別：1,657名

役員 (2023年6月21日現在)

取締役会長 高梨 輝彦

代表取締役社長 西本 逸郎

取締役 船引 裕司 井深 円 土屋 奈生

社外取締役 村井 純 中谷 昇 佐々木 通博

村口 和孝

常勤監査役 伊藤 信博

社外監査役 蜂屋 浩一 関根 良太

株式情報 (2023年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 100,000,000株

発行済株式の総数 31,293,120株

株主数 17,060名

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主確定日 3月31日

中間配当金受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人特別口座の
口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
Tel: 0120-232-711 (通話料無料)

上場市場 東京証券取引所スタンダード

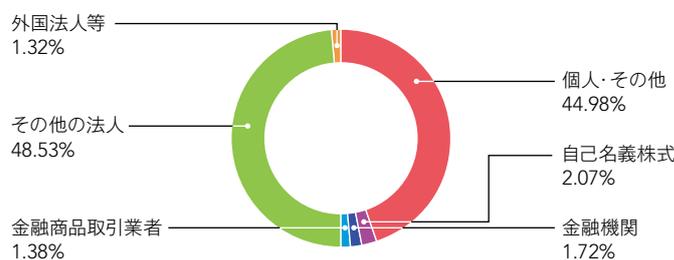
公告の方法 電子公告により行う。
公告掲載URL <https://www.lac.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない
事故、その他のやむを得ない事由が生じた
ときは、日本経済新聞に公告いたします。)

大株主

	所有株式数 (株)	所有比率 (%)
KDDI株式会社	9,784,000	31.92
株式会社野村総合研究所	3,130,000	10.21
株式会社SHIFT	1,334,100	4.35
ラック従業員持株会	1,012,310	3.30
三柴 照和	630,000	2.05
株式会社ベネッセホールディングス	500,000	1.63
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	471,600	1.53
高梨 輝彦	269,700	0.88
吉田 茂	269,300	0.87
山内 正義	262,900	0.85

※自己株式は647,799株ですが、議決権がないため上位10名までの大株主からは除外しております。
※所有比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主様アンケートのお願い

株主様向け報告書を含めたIR活動の充実を図るため、Webサイトによるアンケートにご協力をお願いいたします。お手数ではございますが、右記のURLにアクセスしていただき、株主の皆様のお声を聞かせください。(実施期間2023年9月30日まで)

株主様アンケート

https://krs.bz/lac/m/enq_annual16

▶ ラックIRサイトのご紹介

株主・投資家の皆様の理解促進につながるよう、IRサイトを通じた情報提供の充実を努めています。

新設した「個人投資家の皆様へ」では、あゆみ、事業内容、強み、成長戦略、株主になるメリットなど、当社の要点がわかるようにご紹介しています。

また、決算情報では、フェア・ディスクロージャーの観点で、決算説明会の様子をオンデマンドで配信するほか、説明要旨、質疑応答要旨なども公開しています。

情報充実に取り組んでいることが評価され、当社は日興アイ・アール株式会社が実施する「2022年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」において、スタンダード市場部門の「最優秀サイト」に選出されました。全上場企業を対象とする総合部門では「優秀サイト」に2年連続で選出されています。

ラックIRサイト <https://www.lac.co.jp/ir/>



お問合せ

経営企画部 IR室

Tel: 03-6757-0107 / E-mail: ir@lac.co.jp